



震災文庫 8-82

まえがき

ここに、さまざまな体験の事実と感想をまとめた「記録集」を発行することになりました。恩師や友を失い、家を失い、あるいは九死に一生を得るなど、想像をこえるつらい体験を強いられました。神戸市北区鈴蘭台にある私たちの大学は、神戸とその周辺の鉄道・バスを利用して通学する学生がほとんどであり、そのため、1995年の6月下旬まで交通アクセスの面で大きな影響を受けました。

この記録は、そうした歴史に残る体験を後世に残しておきたいという気持ちと、再びこのような災難が訪れたなら、私たちはどう行動すればよいのかという問いかけを形にしようということで、95年の夏から編集の企画が始まりました。学生の寄稿を呼びかけるためにニュースピラ『オリオン』を、10月27日から96年1月16日まで11号発行しました。そのかいあって、12名の学生から手記が寄せられました。

神戸を大地震が襲うという、信じられないことが現実になり、その後すでに学者によって指摘されていた活断層の存在がひとときわ注目を集めることになり、また都市開発のあり方や日常の備えのずさんさについても論議がなされました。一年以上が経過しても、まだ深くその傷を心に刻んでいる人も多いと思われます。しかし、「非常時の備え」については、震災から日がたつにつれ私たちの関心がややうすらいでいるようにも思われます。この冊子のなかで、三東哲夫先生の意見がありますが、「京都付近の大地震によって神戸が震度6程度に揺れること」と、今なおそれが「差し迫った不安さで現存していること」というご指摘。また、三東先生が15年前に「神戸市が強震を受ける可能性」について再三警告を出したにも拘わらず、その後神戸市が都市開発を優先させてきたということも、政治の在り方と地震との関係ということで、今回の震災の教訓の一つとして銘記しておきたいと思えます。

記憶にとどめるべき点を見落としているのではないかと恐れますが、これをきっかけにして、貴重な体験をさらに語りあい今後の対策や震災の総合的な把握のための議論を展開してくださることを希望します。

1996年3月7日

神戸親和女子大学 震災の記録編集委員会

目次

被害写真

第1部 手記

阪神大震災—生死をさまよって—	英文学科4年	松村麻里砂	13
東灘区で体験した震災	国文学科4年	小谷 久美	20
避難所での生活	国文学科4年	勝原 知	25
私を変えたもの	国文学科2年	賀藤 邦子	27
震災の日の朝	国文学科4年	吉山 暁美	31
震災を通して感じたこと	国文学科3年	西田衣公子	33
あの日々のこと	国文学科3年	匿 名	37
震災体験と親族の不幸	国文学科1年	五十嵐昌子	43
大震災が起きた時	国文学科1年	北田 真理	46
スーパーでアルバイトをして	英文学科4年	前田 憲子	48
地震について	英文学科2年	石田 麻紀	51
兵庫県南部地震	英文学科2年	崎山有歌子	54
災害対策本部から復旧本部へ	学生部長	宮崎 和夫	60
日記抄—阪神大震災	国文学科教員	櫻井武次郎	62
震災体験、そして環境問題	本学非常勤講師	古武家善成	67
猪木聡子先生追悼文	本学非常勤講師	井上 正子	71
	児童教育学科2年	生澤奈津子	73
	児童教育学科2年	石野 順子	75
	児童教育学科2年	一野 美穂	76
鈴木弘美さん追悼文	国文学科4年	奏 麻里子	78

第2部 震災日誌

81

第3部 対話集会

「阪神・淡路大震災をめぐる教職員・学生対話集会 ——あれから1年——」	91		
大震災を振り返って	学 長	藤井 昭治	92
鈴木弘美さんを偲ぶ		ラグロス部有志	93
対策本部としての活動と経過	学生部長	宮崎 和夫	96
震災後の日誌	庶務課	池田 秀史	99
阪神・淡路大震災の被災とその感想	国文学科教員	辻 憲男	102
私の被災体験	英文学科教員	則藤 力	104
ボランティア活動について	児童教育学科教員	野口 益代	109
被災地へ学生の安否を訪ねて	児童教育学科教員	但尾 哲哉	112
集会での学生からの意見			117

第4部 資 料

119

第5部 再生にむけて

今度の兵庫県南部地震に関連して	本学元学長	三東 哲夫	143
—無視された警告書—			
地震などの非常時の対策について	震災の記録 編集委員会委員長	菅野 圭昭	148

第6部 甦えれKOBE —結び—

教訓を風化させてはならない	学 長	藤井 昭治	155
はばたけフェニクス	理事長	小林 発巳	156

1. 神戸親和女子大学兵庫県南部地震に伴う復旧工事

工 事 一 覧 表					
棟	No.	項 目	着工年月日	完工年月日	工事費 (円)
1 号 館	1	内・外部壁面クラック補強	1995. 1 .28	1995. 3 .25	43,007,148
	2	2～4階床クラック補強	3 . 1	3 .29	
	3	内・外部EXP金物撤去・新設	3 .15	3 .30	
	4	硝子割替	1 .28	3 .15	
	5	鋼製建具調整 (一部撤去新設)	3 . 3	3 .10	
	6	1階女子便所壁補修 (設備共)	3 .15	3 .28	
	7	蒸気配管補修	1 .26	3 .16	
	8	給排水管補修	1 .26	3 .16	
2 号 館	1	渡り廊下補強	3 .10	3 .29	4,099,400
	2	EXP金物撤去・新設	3 .15	3 .30	
	3	硝子割替	1 .28	3 .15	
	4	土間タイルクラック補修	3 .15	3 .25	
3 号 館	1	ELVビーム撤去・新設	2 . 1	2 .22	113,000
体 育 館	1	内・外部クラック補強	2 .20	3 .24	6,052,447
	2	硝子割替	1 .28	3 .15	
	3	フロアバレーボール支柱補修	2 .16	3 . 7	
図 書 館	1	内部クラック補強	3 .20	3 .25	925,865
学 生 会 館	1	3階ホール天井復旧	2 .13	3 .17	9,100,000
	2	上記に伴う設備復旧	2 .13	3 .17	
	3	2階食堂照明アルミルーバー復旧	3 . 6	3 .10	
	4	2階厨房内壁タイル復旧	3 .10	3 .26	
	5	外壁クラック補強タイル復旧	1 .28	3 .25	
学 生 寮	1	CB塀補強	3 .10	3 .28	985,000
	2	FRP浴槽割れ補強	3 .10	3 .28	
					小計 64,282,860
					税 1,928,485
					合計 66,211,345

2. 被災学生に対する特別経済支援について

前期特別経済支援

新 入 生 (含 編 入 学)	在 学 生
前期授業料全額免除 280,000円×53人=14,840,000円	前期授業料全額免除 435,000円×21人=9,135,000円
諸費用4分割初回免除 (授業料全免と同時適用) 115,000円×3人=345,000円	前期学費半額免除 217,500円×114人=24,795,000円
新入生合計金額 15,185,000円	在学生合計金額 33,930,000円
前期合計人数 188人	前期合計金額 49,115,000円

後期特別経済支援

新 入 生 (含 編 入 学)	在 学 生
後期授業料全額免除 280,000円×2人=560,000円	後期授業料全額免除 275,000円×12人=3,300,000円
後期授業料半額免除 140,000円×1人=140,000円	後期授業料半額免除 137,500円×10人=1,375,000円
新入生合計金額 700,000円	在学生合計金額 4,675,000円
後期合計人数 25人	後期合計金額 5,375,000円

前期・後期特別経済支援総合計金額

前期合計金額 49,115,000円
 後期合計金額 5,375,000円
 54,490,000円

前期・後期特別経済支援総人数

前期188人+後期25人=213人(のべ人数) ※実数=192人

被害写真

被害写真

補修前



補修後



1号館 2階 ろうか柱かべ

補修前



補修後



1号館 4階 EXPジョイント部



英文学科合同研究室



国文学科合同研究室

補修前



補修後



2号館 玄関



2号館 渡りろうか出入口

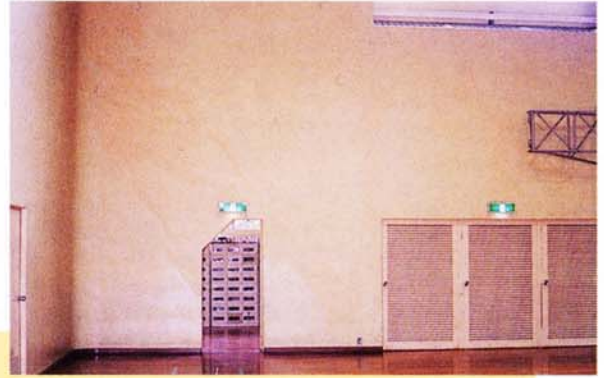


2号館 3階 232号教室

補修中



補修後



体育館 クラック補修工事

補修前



補修後



学生会館記念講堂 天井

補修前



補修後



学生会館記念講堂 フロア



店舗のなくなった商店街



家屋の倒壊



倒壊家屋の残がい



被災地の復旧作業